

奈良教育大学
教職大学院研究紀要

奈良教育大学 教職大学院研究紀要

「学校教育実践研究」

第 11 号

第一号

奈良教育大学大学院
教育学研究科専門職課程教職開発専攻

目 次

論 文

- | | | |
|---|----------------|----|
| (1) 専門的な学習ネットワークが授業改善に向けた教員の指導性と主体性の構築に及ぼす影響に関する基礎研究
－小中一貫教育を進めている学校の組織的教育力の向上と関わって－ | 小柳和喜雄 | 1 |
| (2) 既習教材を用いた物語文の比べ読み指導
－『海のいのち』と『スイミー』に焦点をあてて－ | 小金沢健太 | 11 |
| (3) 小学校英語におけるブレンディッド・ラーニングを取り入れたコミュニケーション意欲を高める取組の考察
－コミュニケーション能力の「社会言語能力」「方略的能力」を意識させる実践を通して－ | 角谷 尚希
前田 康二 | 21 |
| (4) 多忙な小学校現場における学年集団の授業研究に関する実践研究
－5年生体育科とび箱運動に関わる取組を通して－ | 橋本 泰介 | 35 |
| (5) 理科授業設計マトリックスの有用性の検討
－小学校5年生「ふりこのきまり」「電磁石のふしぎ」の2実践から－ | 浪越 一浩 | 45 |
| (6) 小学校理科における科学的な見方や考え方を重視した授業に関する研究
－一枚ポートフォリオを活用して－ | 中村 彩夏 | 57 |
| (7) 奈良県における日本語指導の現状と課題
－公立小・中学校を中心として－ | 新谷 遥 | 67 |
| (8) 小学校における学級づくりの一考察
－優れた教員の指導方法に共通項が見出されるのか－ | 小野 領一 | 77 |

研究報告

- | | | |
|--|---------------------------------|-----|
| (1) 授業でのICT活用において教員に求められる専門知識の研究
－TPACKを活かした学習活動と学習評価の設計を中心に－ | 小柳和喜雄 | 87 |
| (2) 教員養成における教職キャリアカウンセリングの検討
－欧州における先駆的プログラムを手がかりに－ | 河崎 智恵
吉村 雅仁
横山 香
古田 壮宏 | 95 |
| (3) 児童の居場所感を向上させる教師の指導行動の検討
－ストロークの分析を通して－ | 三宅 直也 | 101 |
| (4) 電子レンジ用調理バッグを活用した食育の試み
－幼児および児童を対象とした調理実践－ | 河崎 智恵
山本小百合 | 107 |

奈良教育大学大学院研究紀要「学校教育実践研究」編集規程

2008年12月24日制定

2009年11月11日改定

2011年10月26日改訂

1. 研究紀要の名称

奈良教育大学大学院教育学研究科専門職学位課程教職開発専攻（以下「教職大学院」という。）は、その教育・研究の成果を学校教育の教育実践に資する目的を達成する一環として、研究紀要として「奈良教育大学大学院研究紀要「学校教育実践研究」（以下、「実践研究」という。）を年1回発行する。

2. 研究紀要編集委員会

- (1) 教職大学院会議は、奈良教育大学教職大学院会議規則第2条(8)(9)の事項とかわる目的を達成するために、第7条の規定に基づいて専門部会として「実践研究」編集委員会を設置する。
- (2) 「実践研究」編集委員会は、教職大学院専任教員をもって構成する。
- (3) 研究紀要の原稿の募集、採否、掲載の順序、および体裁などについては、「実践研究」編集委員会において決定する。

3. 内容

「実践研究」の内容は次の三領域とする。なお投稿にかかわっては(1)～(3)に関わる未公開のものに限る。

- (1) 「論文」教育の理論と実践に関する研究成果であること。
- (2) 「研究報告」実践記録、実践結果など。
- (3) 「資料」、研究計画、授業計画資料、未加工の原資料の紹介など。

4. 執筆者

- (1) 第1執筆者は本教職大学院の院生・教員とする。ただし、編集委員会が認めた場合、その限りではない。
- (2) 「論文」領域では、第1執筆者としての投稿件数は2編以下とする。

5. 査読

- (1) 「論文」の審査は、査読者2名の審査に基づき、編集委員会で下記のいずれかに決定する。
A 採択（軽微な字句の修正を含む）、B 修正（再審査を要する）、C 不採択
- (2) 「研究報告」及び「資料」については、査読者1名の審査に基づき、編集委員会で下記のいずれかに決定する。
A 採択（軽微な字句の修正を含む）、B 修正（再審査を要する）、C 不採択

6. 執筆要領

原稿は、別に定める執筆要領に従って作成するものとする。

7. 原稿締切

投稿の締め切りは、原則として毎年1月末日とし、休日などと重なる場合は、編集委員会においてそれを定める。なお、締め切り期限後に提出されるものについては、受理しない。なお、投稿希望者は、論文原稿3部を印刷し提出するものとする。なお審査後、採択された場合は、指定された形式で記録したデジタルデータを編集委員会に提出する。

「実践研究」執筆の手引き

1. 研究紀要の規格は、A4 判とし、組み方は横 2 段組（23 文字 50 行× 2）とする。
2. 原稿の枚数制限は、原則として「論文」は刷り上がり 10 頁以内、なお「研究報告」（原則 6 頁以内）「資料」（原則 4 頁以内）については、編集委員会で検討し、場合によっては制限枚数を越えることを認める場合がある。
3. 投稿申し込み者は、原稿 3 部を印刷して教職大学院事務室に提出するものとする。
4. 原稿作成には、ワードプロセッサを用い、図表を含めた印刷完成時のレイアウトを行うこと。原則として、「論文」は、以下の原稿の書き出し並びに形式に従うこと。ただし「研究報告」、「資料」等はその限りではない。
 - (1) タイトル、氏名、所属については英語表記を付すこと。
 - (2) 英文（アブストラクト、200 語程度）ないしは日本語（400 字以内）の要約を付すこと。
 - (3) 要約の最後に、日本語と対応する英語のキーワードをそれぞれ 3 つ以上付すこと。
5. 基本的に論文タイトルや章、節は、ゴシック体で表す。
6. 章・節の番号は、以下の通りとし、ピリオド止めとする。
 - 1.
 1. 1.
 1. 1. 1.
7. 句読点の表記は、日本文の場合（、。）とし、欧文表記の場合（, .）とする。
8. 註記は、文中で
・・・学習指導要領の改訂に伴い²⁾、のように、上付きで表記する。
9. 図や表の見出しは、図の場合は図の下側に、表の場合は表の上側に、図、表それぞれの通し番号の右側に付す。
10. 図表、写真等は、貼り付ける位置と縮尺を明示し、原稿末尾に添付すること。なお、既に原稿に貼り付け済みのものについてはこの限りではない。
11. 註、及び参考文献は、論文末に一括して掲載するものとする。なお、註の中に引用文献を記載することも可能である。

引用・参考文献の記述は、刊行物の種別に応じ、以下の通り記述するものとする。

 - (1) 単行著作物：著者名、発行年、書名、発行所、ページ等
 - (2) 定期刊行物（雑誌）：著者名、発行年、論文名、刊行誌名、巻号、発行所、ページ範囲等
12. 執筆者による校正は、原則として初校までとする。なお、採択された原稿の校正は、誤植の訂正のみとし、内容の添削、変更などは認められない。
13. 編集の都合上、編集委員会の判断において論文の体裁等を変更することがある。

以上

編集委員会

小 柳 和喜雄
粕 谷 貴 志
河 崎 智 恵
北 川 剛 司（編集幹事）
木 下 理 恵
玉 村 公二彦
中 井 隆 司
中 澤 隆 志
根 來 秀 樹
東 畠 智 子
前 田 康 二
宮 下 俊 也
吉 村 雅 仁
大 橋 輝 雄
阪 部 清
廣 岡 敏 美
山 本 吉 延

奈良教育大学 教職大学院研究紀要
「学校教育実践研究」

Bulletin of School of Professional Development in Education (SPDE),
Nara University of Education

（通巻 第11号）

2019 年 3 月 31 日 印刷

2019 年 3 月 31 日 発行

発行者 奈良教育大学大学院教育学研究科専門職課程教職開発専攻

印刷所 能登印刷株式会社

〒920-0855 石川県金沢市武蔵町7-10